

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金
令和5年度 第1回理事会議事録

1. 開催日時 令和5年6月7日(水) 10時30分から11時45分
2. 開催場所 WEB会議
3. 出席者 理事総数 9名
出席理事 8名
理事長 細谷龍平
理事 開発 毅, 黒原繁夫, 西東一彦, 高屋雅樹, 花島 信,
山口淳治, 山田 聡,
監事総数 2名
出席監事 2名
監事 諏訪光宏, 堂 裕司
陪席者 2名
岡本 崇(福井市商工労働部観光文化局文化振興課主事)
松村拓海(福井県総務部大学私学課主事)

4. 議 題

- (1) 審議事項
第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告
第2号議案 基本財産の取り崩し
第3号議案 理事, 評議員候補者の選任
第4号議案 定時評議員会の招集
- (2) その他

5. 定足数の確認

理事総数9名中8名の出席があり, 定足数を満たしていることを確認した。

6. 議事概要

(1) 審議事項

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告

事務局から, 令和4年度事業報告及び決算報告について説明があった。その後, 監事から監事監査報告書により, 令和4事業年度に係る事業報告及び計算書類等は, すべての重要な点において適正に表示されており, また, 当事業年度における財産の状況及び理事の業務執行については, 法令及び定款に違反し, または著しく不当な事項は認められない旨の報告があった。全員異議なくこれを承認した。

第2号議案 基本財産の取り崩し

本年度の事業運営のために必要な額を基本財産から取り崩し, 流動資産である普通預金に振り替えたい旨説明があった。審議の結果, 全員異議なくこれを承認した。

第3号議案 理事, 評議員候補者の選任

議長から, 4名の理事から辞任届が提出されたこと, 1名の理事が任期満了となることの説明の後, 後任の理事候補者を選任したい旨発言があった。

審議の結果、春日野道治氏の後任として寺川直輝氏を、松下晋也氏の後任として山崎良成氏を、山田聡氏の後任として小森雄介氏を候補者として選任、また、鞍谷文保氏が辞任し、新たに澁谷政子氏を候補者として選任、令和5年度定時評議員会終結時に任期が満了する開発毅氏は引き続き理事候補者(重任)として選任することを全員異議なく承認した。なお、任期については寺川氏、山崎氏、小森氏の3名は前任者の残任期を引継ぎ令和6年定時評議員会終結時まで、澁谷氏、開発氏については令和7年定時評議員会終結時までとする旨補足があった。

次に、評議員の山本博文氏から辞任届が提出されたので、後任の評議員候補者を選任したい旨発言があり、審議の結果、新たに明石行生氏を評議員候補者として選任することを全員異議なく承認した。なお、任期は4年となり、令和9年定時評議員会終結時までとなる旨補足があった。

第4号議案 定時評議員会の招集

議長から、定時評議員会を次のとおり開催したい旨提案を行った(基本財産の処分について必要な3分の2の定足数に満たない場合は別途メール審議とする旨付言)。全員異議なくこれを承認した。

①開催日時 令和5年6月22日(木)14時から

②開催場所 対面およびオンラインのハイブリッド会議

(対面) 福井大学文京キャンパス学生交流センタープロジェクトラーニングスペース

③会議の目的事項

(1)審議事項

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告

第2号議案 クリスマス事業の総括と基金の今後

第3号議案 基本財産の取り崩し

第4号議案 理事、評議員の選任

(2)報告事項

令和5年度事業計画及び予算

(3)その他

(2)その他

議長から、基金の資産運用について、今後リスクを伴う投資を見据えた資産運用の可能性について検討を始めたい旨説明があった。その背景としては、細谷が理事長に就任して以来これまでの5年間、グリフィスの知名度向上に向けた諸事業の実施に注力し、若干の収益を含む一定の成果を上げるには至っているが、収支を均衡させるには引き続き程遠いレベルにある。募金活動には経験上多大な労力を要し、かつその効果は限定的かつ一過性である。日下部、グリフィスの顕彰と並ぶもう一つの基金事業の柱である青少年の国際交流支援は意義ある活動であるが本質的に収益は生まない。日本の経済はすでに長年の間実質成長がなく金利が潰れてしまっている基本構造に鑑みて、当基金として今後も長期の存続を前提とする限り、実質的な定収入を得る道は、多少ともリスクを伴うものを含めた資産の分散投資を考える他に基本的にはないと考えられる。現に GPIF(国民年金の積立基金)や東京大学など代表的な公的機関はすでにそのような考え方に立って外債、外国株式を含む資産運用に踏み切っている。

これに対して各理事の意見を求めたところ、リスクに踏み込むことは慎重に考えるべきとの意見、拙速は避けつつも基本的にはリターンが得られる投資を考える必要があるとの意見、ポートフォリオのリバランスに当っては現有債権(電力債)の満期前の値動きに注意する必要があるなどの意見が述べられた。これらの意見を踏まえ、本件に関しては、資産運用専門家の意見を聞くことや評議員会での意見交換も行った上で、継続的に検討していくこととした。

以上をもって、議事を終了し、閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、出席した理事長及び監事は、次のとおり記名押印する。

令和5年6月7日

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金

議長 代表理事（理事長） 細 谷 龍 平 印

監 事 諏 訪 光 宏 印

監 事 堂 裕 司 印